

日大土木会会報

発行：日大土木会広報部

〒101-8308

東京都千代田区神田駿河台1-8

日本大学理工学部土木工学科内

TEL：03-3259-0662

FAX：03-3293-3319

http://www.nu-dobokukai.com

日大土木会特別講演会 「なぜ今、私が社長か」

昨年6月、平成19年度日大土木会総会当日に特別講演会が開催された。

司会

坂井淳氏（日大土木会広報部会長）

講演者

大豊建設株式会社取締役社長 岡村康秀氏

不動テトラ株式会社取締役社長 高橋昭夫氏

坂井氏

只今から「なぜ今、私が社長か」という題で、日大土木会特別講演会を開催します。私は昭和三十九年卒の坂井ですが、司会進行をさせていただきます。まず、最初にこの講演会を催すことになった経緯についてお話します。

私は理工学部土木工学科を卒業し、縁あって水産庁に就職しました。土木屋としては異端の方の漁港、漁場、漁村などの整備の仕事に携わってまいりました。仕事の関係で、海関係の建設業界の皆様と仲良くさせていただきました。本日の講師であります同期の岡村さんとも鳥取県の漁港の仕事でめぐり合いました。さて、岡村さんは前々から



坂井 淳 氏（司会）

社長になるだろうと言われており、その通り昨年、岡村社長が誕生しました。そして、私の周りを見ましたら、五洋建設の社長に村重さんが就任され、また合併された新会社「不動テトラ」に高橋社長が誕生しておられます。五洋建設の村重社長は、今日は重要な会議があり、どうしても出席できないということですが、五洋建設は海関係のいわゆるマリコンの、わが国のリーダーの会社です。このように私の周りに三人も社長が誕生したわけです。言い方は悪いかもしれませんが、本学の出身の皆様も小企業の社長さんは沢山いると思いますが、海関係の大手企業に同時に三人も社長が誕生するというのは、偶然だけではないのではないかと考えたわけです。

今、建設業界が一番厳しい時代ではないかと思えますが、このような時に、なぜ我が日大土木から三人も社長が誕生したかというのをちょっと探してみたいと提案したところ、「お前司会で全部やれ」ということになってしまいました。慣れない司会でお聞き苦しい点多々あるかと思えますが、よろしくお願ひします。それから、今日は現役の学生さんが結構大勢、社会人の皆様方の間に挟まって聞いて頂いておりますので、業界の実情とか、真の姿というようなものをお二人の社長さんに吐露して頂きたい。建設業にはまだまだ未来があり、やるべきとが沢山ある、やらなければならぬことが沢山あるというふうなお話を期待します。

それではこれから、講師のお二人から自己紹介を兼ねながら、大学を出てから会社の中でのようなポストでどのような仕事をしてきたのか、思い出に残る仕事とか、学生時代に考えていたことと社会人になってからのギャップがどうであったか、会社で壁にぶつかったことがあればそれをどのように解決してきたか、特技とか趣味とか、ライフヒストリーのようなものを十分程度でお話していただきます。まず、大豊建設の岡村社長さんからお願いします。



岡村康秀 氏（大豊建設（株））

「なぜ今、私が社長か」と言われまして、松田会長はじめ諸先輩がおられるところで、とても恥ずかしくてお話ができかねますが、私なりに感じるところをお話しさせていただきます。なぜ本学出身の社長がでるかというのを、私なりに考えますと、確か平成六年くらいから、建設業が非常に厳しい時代を迎えまして、昭和三十三年に本学の土木を卒業された飛鳥建設の石原社長、昭和三五年にやはり土木を卒業された佐藤工業の吉田社長、それに昭和三十三年に卒業された私も大豊建設の内田社長やいろいろな日産建設の益山社長、それから、昭和三十七年ですと三井住友建設の友安社長、そして坂井さんお話の村重さん、高橋さんが社長で、もつとその他にもおられるかも知れませんが、多くの社長が誕生しています。昔、日大は大きな会社ではな

かなか社長にはなれなかったのですけども、時代が乱世になったときに一気に日大の社長があらわれたんですね。それは何だろうかと考えますと、答えが既に決まっているものの、世の中、平穩で、今日やったことは明日やれば良いという、試験でもその解答の書き方が分かっているものについては、やはり官学の方が強いのかなと思ったりしますね。先が分からないということ、これは日大の人が強いのかなあ。また、お人よしだから、難しいところに選任され、前に出されるのか、よく分かりませんが、何かそういうふうな感じがします。なぜそのようになるのかといえ、先ほど申し上げた石原さんはトンネルで、吉田さんはダムで、友安さんはPCで設計から施工まで業界一位ですね。私共の内田前社長の都市土木においても然りで、皆様仕事をきっちり持って、他に負けないものをもって、と思うので

三十九年土木の同級生ですし、営団から始まって、国交省、道路公団などにも日大の卒業生がたくさんおられて、それぞれ私が困ったときはすぐに手を差し伸べていただけ、本当にありがたいです。また、諸先輩もいろいろなところにたくさんおられるので、日大を出て非常によかった、私も皆に恩返ししたいと思っております。なぜ社長かというところ、日大のよいところはないでしょうか。大学出て大豊建設に入ってから、土木という職業がよく分からなくて、顔もどつちかというところ、最初は誰か言うことを聞いてくれませんでした。「おまえ会社間違えたんじゃないの」とか、「小学校の先生とかになったほうがいいよ」とか良く言われました。しかし、私の考えはこの会社に来た以上、「今いるところがど真ん中」、「今いるときがど真ん中」で、一所懸命その場をやるしかないと思えました。諸先輩のやり方とか職人のやり方を、つまびらかに見て真似して、そのうちこちらのほうが上手になりまして、下請けの信頼も得ました。そして、下請けをしつかり指導すれば、大体皆がついてきてくれることが分かって、会社も結構もうけさせて

もらいました。こうして土木に段々馴染んできたのですが、そのうちに、なかなか上司とうまくいかななくて、「土木なんかやらなくていい」と言われて、コンピュータをやらされました。あのころは汎用機があり、三年に五六億円の損失を出してしましたので、パソコンに切り替えてしまおうと考えたのです。これは業界で一番早かったのではないかと思います。今はメールが当たり前ですけど、全部パソコンにメールを配信し、汎用機をいっしょに捨ててしまいました。「怖いものなし」でどんとやってしまったのです。私の会社は、大手と違い何万人という会社ではないので、やろうと思ったらすぐ出来るのです。いざ、やってみると結構面白くなりましてね。そのうちに品質管理とか、ISOなども取得しました。

また、建築が伸びてきたので、建築のマネージメントをやらされました。社内での問題を一番研究したのは私ではないかと思っています。これもやはり、「今いるところが真ん中」の精神で、大企業では出来ないでしょうけれど、長所と短所というのはいつも裏表になっていると思っています。

しているのかなあと思いますが、勿論、土木の現場は二十年以上やりました。社内ではコンピュータとか建築をかれこれ四年やりました。会社が小さいものですから何でも兼務で現場の所長や営業や、支店長もあちこちやりました。会社には大きな力はつきませんけど、個人には付くというような生活をしてみました。そういうことで、今日まで来ているんですけど、今は当社に自分の性質があつていてと思っております。今後は周りが大きく変わっていきますけれども、その時と場所を一生懸命やっつて皆で生き延びて、新しい世界に通用するように、継続していこうと思っております。公共事業の半減やメンテナンスの増加など情勢の変化に対応して、会社の内容を変えていかなければならないのですが、社員を含めて情性がついているものはなかなか難しい。皆意識を変えて、切り替えいくことが必要だと思っております。

国内の仕事が減っているの、海外もあちこち行っています。海外の技術者と面と向き合うと日本の技術者と全然違っていて、一人ひとりの個性が確立していると思います。ひよっとしたら、土木を出たものの、単純梁やコンクリートの断面計算も出来ず、ただ現場の追い回し屋になっている人いませんか。海外の土木技術者はきちんとした基本的な素養があると思います。また、やっぱり語学が出来ないのは致命傷だと、自分でも思っております。自分でも思っております。この若い方は是非語学をやつていただきたい。学生さんは今やっておくべきことはきちんと勉強しておくことが一番大事です。今は大きい会社も小さい会社も関係ないですね。個人の強さが、中心になってくるだけに、現に私もが使っている外国の技術者などは、台湾の新幹線をやつたら、すぐアフリカへ、というようにいろいろな経歴を皆持っている。彼らはその経歴を条件に給料を交渉してきます。プロジェクトごとに生活している、また儲かった人がこういうところに来たから、誰々さういふ風にして欲しいというところは素直にお願いして、聞いて頂いて、皆に可愛がってもらって、そして会社として儲けさせてもらいました。大変楽しい土木の生活を送らせてもらいました。しかし、今は極めて厳しく、半値の値段で入れて、それでなおかつ仕事が取れないとか、仕事がかたやても赤字が何億円とかあつて、どうしてそれを消そうかとか。そういう時代に入つています。いい加減長く続いてる土木の巻内教授などは、私どもと雲泥の差の頭のよさでした。

普通思っていることを話させていただきました。坂井氏 どうもありがとうございます。さすが、社長さんですね。それでは、引き続きまして不動産テトラ株式会社の高橋昭夫社長にお願いいたします。

最初配属は君津でした。新日本製鉄、当時は八幡製鉄でしたが、君津の製鉄所を新規に造る工事が始まり、私もその会社もそこに進出したわけですね。その地盤は浚渫土で埋め立てておりましたので、もともと相当地盤が悪く、水位も高い。そこにヘドロ状の浚渫土で埋め立てている、そういうなかで、砂杭を相当打ち込みまして地盤を改良し、基礎が構造物に耐えられるような工事をやっております。

新入社員として入りまして毎日現場でしたが、隣では前田建設が大きな岸壁を、鹿島建設が高炉の基礎をやつておりました。そこでは大きな機械を使つていまして、私のほうの工事はなんとなく貧弱で非常に残念に思つた覚えがあります。若かつたですから、当社もあのようない仕事が出来ないようにしたいなあと思つながら現場をやつておりました。

四、五年後、新幹線ブームになりまして、当社も宮城県古川地区で、新幹線の工事を頂きました。そのときは隣が河川の中へ、ケーソンで橋脚をつくつていました。私もはその隣をやつたわけですね。私は入社後八年が経つておりまして、当時は経験がなくても何でも良いからということで、今でいう監視技術者として、その現場に配属されたわけですね。そのとき宮城沖地震が起りまして、相当被害をこうむつたわけですね。それが昭和五三年です。周りの高速道路やいろいろ建物が倒壊してしまつてね。また施工途中に、地震によつて構造物がどういう影響を受けたか心配いたしました。当時、現場打ち杭、ベント杭工法で生コンをうつている最中でした。杭の状況、養生期間中、コンクリートが固まらないままのときには、どういふ変化を起しているかというのを調査したわけですね。発注者の旧国鉄が心配しまして、杭を打つてから一週間後、打つている最中の杭あるいは一月後などといういろいろな場所を選びまして、横から荷重をかけたたり、上から荷重をかけたたりしているの調査しました。それなりの強度をもつていたという結果が出ました。また他の構造物や橋脚も強度に変わりがないということが成果として出ました。土木というのは、相当奥深い技術をもつていて、非常に感銘を受けました。土木の技術屋として生きてゆこうと決意した瞬間です。

その後いろいろ現場など工事担当は相当長いのですが、途中から管理部、企画部というところを転々としたら、営業では東北支店長をやらせていただきました。そのとき、本学の力はすごいなあと、思いました。営業として初めて東北に支店長として出ましたが、東北地区の支店長は本学の出身の方が十数名おられました。大成建設の古林さん、西松建設の宗沢さんとか皆さんが「初めてお前が営業やるのならば、いろいろ教えてあげるよ」ということで、私も不安で出ましたのですけれども、四年間、楽しくやらせていただきました。その後、本社に帰り社長に就任し、当社が不動産テトラとなりましたけれども、引き続き社長をやらせていただいております。

若い皆様に申し上げたいことは、日本の土木技術、これは絶対に世界にも負けない技



高橋 昭夫 氏 (不動テトラ (株))

術をもっているのだというこ
とです。これは私がいつも
思っていたことですが、飛行
機のパイロットは相当な高給
取りであり、なおかつ尊敬の
眼差しで見られております。
飛行機に多くのお客さんに乗
せて、無事に飛行するという
ことが皆様から評価されてい
て、社会ではエリートコース
だと思われております。けれ
ども何をかいわんやです。高
速道路、ダム、新幹線にしま
しても、この構造物がもし何
かで破壊されたとき、甚大な
被害になるわけです。特に本
当にダムが崩壊したら、一つ
の都市を飲み込んでしまうこ
とになるわけで、それだけの
高度で責任のある設計技術、
施工技術があるわけで、土木
技術者を何かに軽んじている
のではないかと、という不満を感
じています。若い方たちがそ
の辺のことをよく理解して、
どしどしやっていたらいただ
けと思います。

いは、施工技術を磨いて、そ
の力で仕事を取ってくる、こ
れが主流になりつつあるとい
うことですね。
ですから、これに負けてし
まう企業というのは生き残り
ない。私どもは小さな会社で、
スーパージェネコンとは、技術
力には差があります。しかし、
その中で自分の会社が得意と
する技術だけは負けない、と
いうようなコアを作らないと
駄目ではないかと思っております。
また、このコア技術の
分野で、従来とは違う何か大
きなことが出来てくれるので
はないか、そういう世界にな
るような気がしております。
そうなりますと、学生時代か
ら技術の基礎をしっかりと勉強
して、社会に入ったときにそ
れを有効に使って働く、その
技術は社会人としていつまで
経っても、必ず有効だとい
う気持ちで勉強していただき
たいと思います。

私どもの会社クラスでも、
一つの物件が百億円単位の仕
事にも立ち向うチャンスがあ
ります。そうなりますと、会
社の規模から言っても、ちょっ
としたミスでも非常に大きな
ダメージを会社に与えてしま
うことになりま。この辺は
それなりの技術部隊がいて、
トップに費用、あるいは品質
を理解できる経営者がいない
と最終判断が出来ないと思
います。そのためにも土木の技
術を十分理解した人が経営

技術の先輩たちはそういう見
方をしていました。当時はま
だ公共投資が大きくて、営業
でうまくとれば、どんな仕事
でも取れるという時代にす
ね。いま振り返ってみます
と、全くそのとおりになって
きましたし、私も本学で土木
技術を学んできたことが最後
には力になったのではないか
と思っております。

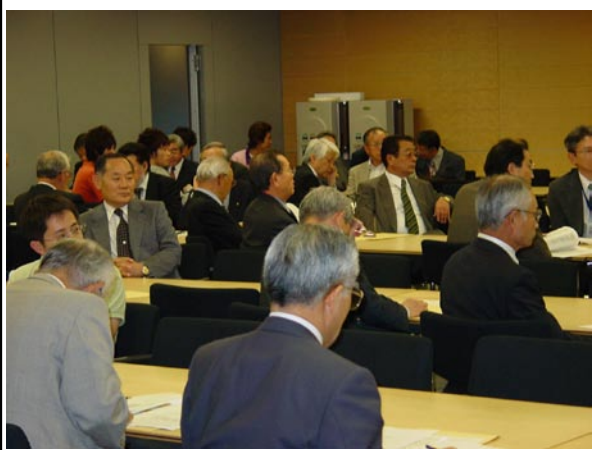
坂井氏
高橋さん、ありがとうございます
しました。一番厳しい時代の
第一線のお二人の社長さんで
すので、迫力のあるお話を伺
えたと思います。
さて、今回のテーマについて、
「社長の条件」というの
を調べてみました。「社長の
八原則」というがあるそう
です。まず第一番目に「当社の
企業理念を継承する者である

こと」、要するに、その会社
の理念を継承できないのであ
れば、別の会社を自分で作る
べきであつて、社長になるの
であれば現理念を継承しなけ
ればならないということす
ね。次に、「人品高潔である
こと」、これは当然のこと
です。三番目は、「人の心を理
解する者であること」、人心
を全て掌握するということが
社長として大事ですね。四番
目に、「収入を増やし、支出
を減らす者であること」、こ
れは難しいことで、今は出る
一方で入るほうが少ないので
はないかと思いますが、社長
はそうでなければいけない。
五番目は、「技能と職務に精
通している者であること」、
これは今までのお二人の話で
ピタリで、技術屋で、それ
も会社全体の技術を理解して
いるということだと思いま
す。六番目に、「社会通念に
限りなく近い行動様式を守れ
る者であること」、これは礼
儀とか、英語でいうとアピ
ランスというものですけど
も、社長は風采容姿も重要で
あるということですね。七番
目に、「個人資産が多い者で
あること」、貧乏人は社長に
なれないわけですね。お二人
とも結構お金持ちではないか
と想像されます。八番目の最
後は、「人を育てられるもの
であること」、この八つの条
件が合う社長さんはなかなか
いないそうですが、お二人の

お話伺い、かなりの部分
ピタリあつていますね。ま
た、いろいろな社長を見て、
私がいちも感じておりますの
は、「明るさ」という資質が
非常に重要ではないかとい
うことです。困難に遭遇したり
あるいは、もしかしら部下
が失敗しても、そこで終わり
なのではなくて、それを明る
く耐えてつないでいく能力が
社長として大事なのではと感
じております。
そこで、この際、是非聞い
ておきたいのは、「社長にな
れ」と誰に指名されたか、そ
れをなぜ、断らなかつたのか
とか、その辺のところを一言
ずつお願いします。

岡村氏
私の場合は、先ほど申し
た通り、土木が一番合わない
ことが多々ありましたが、本
人としては絶対勝負をいつ
たら勝っているはずだと思
いますけれども、企業の倫理の
中ではそうでない部分が結構
ありました。ところが周りの
環境が随分変わってしまいま
した。私が土木の今までのシ
ステムで一番遠いところに
たということ、土木の基本
的な技術は十分身につけて
いて、お金もうけにも結構貢
献していたということが、私の
上司であります昭和三年卒
業の内田社長のご判断だろ
うと思います。
そこにおいて、私の「今い
るところがど真ん中」、「今い
るときがど真ん中」で、社長
やれと言われれば、分りま
したと、二つ返事で無鉄砲で
すよね。そういう形で、あれ
もこれ悩まないで、軽い気持
ちで引き受けました。でも
いざお受けすると大変です
ね。株主総会が近くになりま
すと胃が痛くなりますし、こ
れからもまた厳しいのでは
ないかと思ひます。けれども
逆境にいればいるほど、心
はしやがせて、さらにの上
がるように明るく爽やかに、
楽天的にやれば良いし、また
今までに解決しなかつた問題
はないですよ。

高橋氏
岡村社長と違って、当社は
三年前もう少し厳しい現実が
ありました。私どもの旧不動
建設は新日鉄から社長がこ
ら来て、建築と土木をもつて運
営していたのです。三年前に
建築部門の赤字が累積し、最
終的には土木と地盤改良部隊
の利益だけではその赤字は
解消できない事態になりま
した。いろいろありましたが、
最終的には三菱東京銀行
が債権を放棄、新日鉄は持株
を全部減額して、建築部門を
分離して別会社へ全て営業譲
渡したという形で、会社を再
スタートしようとしたわけ
です。その中で、私が名古屋の
支店長をやっております
ときに新日鉄出身の社長か
ら「これからどうするんだ」



特別講演会の会場より

といわれまして、こういう言葉をかけられた時に、瞬間思いましたのは、今までこれだけ土木で一生懸命やってきたこと、あるいは当社が持っている技術をここでなくしてしまつてはいけないのではないかといいことでした。といいますのは、当社の地盤技術系の公開受注件数を約二百七十件ちかく持つておりまして、スーパーゼネコンの中では清水建設が一番多くても百六十件。これだけのニーズをここで失つてはいけない、それと同時に、今まで一緒に働いた仲間が最後までいなくてはないと考えたのです。

皆でがんばらざるを得なくなり、新日鉄出身の社長にいろいろ条件をお話ししました。それでもいいよとなったもので、それから、そうなりますと残っている者の歳からいいますと、私が土木関係では一番年上でしたから、これは社長をやらざるを得ないと思いましたが。最後は、残った土木の役員は皆のために奉仕の精神でやろうじゃないかというところがすぐに皆様に理解していただけたものですから、すぐにお受けしようなわけですね。

そのときに、テトラから株の五十%を引き受けていただきスタートしました。それで無難にすんでいればよかったですけども、今度は私どもとテトラとの合併話ができて

ました。これは一つは新日鉄がテトラの筆頭株主でしたし、テトラが公共投資の激減で相当厳しくなつた。その中でテトラが持っているテトラポッド型枠事業は継続していきたい、これだけは残したいというような意見が生まれ、二社で協議した結果、合併していいということになりました。当社にとりまして地盤改良技術をもっているコアと、型枠事業をもっているコアとの二つのコアで、将来、一般土木あるいは海洋土木を十分まかなえるのではないかと、というようなことから、とんとん拍子に話が進みまして、去年の十月、不動テトラという新しい会社が出来たわけです。その際には、テトラの方には非常に厳しい条件等があり、早期退職者勧奨制度等をやり、負担をかけた形で、十月一日に合併いたしました。社長になって、次から次へいろいろな事柄が起こりまして、なかなか落ち着かないのが現状です。けれども、こういう社会情勢のときに、コア技術をもっている会社として将来に向かっていけるということとは非常によかつたと思つております。例えば、羽田空港拡張プロジェクトにしても、直接ではありませんが、地盤改良工事と消波工にテトラポッドという二つのコア技術を採用していただけることになっており、嬉しいかぎり

です。海外工事や大規模な工事などについても、スーパーゼネコンや各種の会社とコア技術をもつて連携していただけるよう進めなければならぬと考えています。いま一番の悩み事は若い方たちになかなか来ていただけないことです。新聞等で施工会社は悪者に書かれたりしますが、そんなことありません。日本の基盤を整備していく、国土を守っていくために、やることはたくさんあり、また将来は地球規模に向かっていくと思います。本学にもお願いしていますけども、どうか希望を持って会社に来ていただきたいと思つています。

坂井氏
どうもありがとうございます。これまでの大豊建設岡村社長、不動テトラ高橋社長のお話で本日のテーマについて十分に意を尽くすことができたいと思つています。ご出席の五洋建設村重芳雄社長から、「ご出席の皆様にくれぐれもよろしく、また会社として優秀な人材の確保と育成が重要な課題であり、日大土木からも優秀な人材を送り込んで欲しい」と伝言をいただいております。

最後に、お二人から言い残したこと、あるいは、学生さんへのメッセージを一言ずつお願いいたします。

岡村氏
本日はこういう席を設けて

いただいたいて、大変光栄です。学生さんには学ぶときにしっかりと学んで欲しい。それからどんなに社会が変わろうがこのことは変わらないでしょう。グローバル社会になって、日本の国は輸出が少なくなつていて、逆に輸入が多くなつていくわけですね。そうするとあらゆる国から人や物が来るわけですから言葉が重要になってきます。世界はお金が多ぐるぐる回っている、人が多ぐるぐる回っているということ、ぜひ語学は必修ですね。それを是非お願いしたい。

それと土木の基礎をきちんと身につけてほしいと思つています。難しいことはいいですが、単純梁の計算とコンクリートの断面計算だけでもいい。現場で行われていることを技術的に理解できなければいけない。技術は生きていくことを肝に銘じ、技術に貢献するということを十分わきまえて明日からでもしっかり勉強してもらいたいと思つています。

私たちが日大に育ててもらつて本当に良かったと思つています。昭和三九年卒の方々はあらゆる職場におられて、大活躍されました。彼等からだけだけ助けてもらったかわからないほどです。本当に日大土木は素晴らしい。是非とも子弟を日大土木に入れて下さい。よろしく願ひします。

高橋氏
では、若い学生さんに一言。

これは私が新しい会社になりましてから会社の新人に言うことですが、企業というのは個性豊かな人が沢山集まつてはじめて活力が出るので、ですから一人ひとりが会社に入つたときに自分の思想や哲学を持ち、社会秩序や会社のルールを超えない範囲で自由に考え行動する人たちが育つてくれば、その企業というのには大きな力になると思つています。その辺だけは、会社に入つたから何も会社のルールや会社の思想ということではなく、十分自分たちの個性を持つて、豊かな個性でやつていただければその企業は将来大きくなるのだらうと思つています。そういった中で、私が好きな言葉ということですが、いつも言うのですが、寺山修司さんの詩で「ふりむくふりむく、後にには夢がない」、これで行かなければ駄目だと思つています。若い方にその辺を理解していただければ幸いです。

坂井氏
今日はお二人の社長、社内数千人の一族を預かつて活躍されている社長の生の声を伺うことができ、有意義なひとときを過ごせたと思います。また、学生さんたちは何かインパクトを与えることができたら我々企画したのもありがとうございました。

平成19年度の就職状況

分類	理工土木			理工社会交通			工学部土木			生産工土木		
	学部	院	合計	学部	院	合計	学部	院	合計	学部	院	合計
1. 建設業、設備工事業	72	4	76	9	0	9	73	4	77	81	3	84
2. 製造業（製鉄、セメント）	16	1	17	5	1	6	8	2	10	10	1	11
3. 電気、ガス	4	0	4	0	1	1	2	0	2	0	0	0
4. 運輸、通信	10	0	10	22	3	25	2	0	2	7	2	9
5. 不動産業	32	1	33	0	0	0	8	0	8	10	0	10
6. コンサルタント、サービス業	25	2	27	27	4	31	17	4	21	15	6	21
7. 商社、金融、保険、卸売、小売業	16	0	16	5	0	5	11	0	11	10	0	10
8. 公務員	49	13	62	10	5	15	9	0	9	16	2	18
9. 公団、公社、独立行政法人	6	1	7	0	1	1	0	0	0	0	0	0
10. その他	25	1	26	12	0	12	5	0	5	19	0	19
11. 進学	33	2	35	17	3	20	9	0	9	21	2	23
合計	288	25	313	107	18	125	144	10	154	189	16	205

単位（人）

日大土木系 3学部4学科教員紹介

教員の詳細は、各学科・各教員のホームページよりご覧ください。

日本大学工学部土木工学科

〒963-8642 福島県郡山市田村町徳定字中河原1番地
TEL : 024-956-8705 FAX : 024-956-8858
<http://www.ce.nihon-u.ac.jp/gakka/doboku/index.htm>

氏名	職名	専門
西村 孝	教授	環境衛生工学
高橋 迪夫	教授	水理学
五郎丸英博	教授	橋梁工学
長林 久夫	教授	水理学
古河 幸雄	教授	土質工学
中村 晋	教授	地震工学、動土質力学
堀井 雅史	教授	交通計画
渡辺 英彦	教授	応用力学
藤田 豊	准教授	河川工学
岩城 一郎	准教授	コンクリート工学
知野 泰明	准教授	土木史、景観工学
佐藤 洋一	専任講師	衛生工学
梅村 順	専任講師	地盤工学
子田 康弘	専任講師	コンクリート工学
仙頭 紀明	助教	地盤工学

日本大学生産工学部土木工学科

〒275-8575 千葉県習志野市泉町1-2-1
TEL : 047-474-2420 FAX : 047-474-2449
<http://www.civil.cit.nihon-u.ac.jp/>

氏名	職名	専門
西川 肇	教授(研)	河川工学、リモートセンシング
遠藤 茂勝	教授	海岸工学、港湾工学
河合 糺茲	教授	鉄筋コンクリート工学
藤井 寿生	教授	測量学、リモートセンシング
木田 哲量	教授	構造工学、橋梁工学
大木 宜章	教授	衛生工学、環境工学
越川 茂雄	教授	コンクリート工学
柳内 睦人	教授	コンクリート工学
高崎 英邦	教授	施工システム工学、トンネル工学
五十畑 弘	教授	鋼橋、土木計画
阿部 忠	教授	構造工学
藤井 寿生	教授	測量学、応用測量学
澤野 利章	教授	構造工学
三田地利之	教授	土質力学
秋葉 正一	准教授	土質工学
工藤 勝輝	准教授	測量学、建設システム工学
落合 実	准教授	海岸工学
岩下 圭之	准教授	測量学、コンピュータデザイン工学、リモートセンシング
伊藤 義也	准教授	建築材料工学
小田 晃	准教授	水理学演習、河川工学
山本 高義	専任講師	土木技術史
保坂 成司	専任講師	土木生産製図、衛生工学、環境工学
高橋 岩仁	助教	環境工学、衛星実験、土木生産製図
水口 和彦	助教	土木設計製図、構造実験
徐 銘謙	助教	土木設計製図、土質実験、道路実験

日本大学理工学部土木工学科

〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台1-8-14
TEL : 03-3259-0687 FAX : 03-3259-3319
<http://www.civil.cst.nihon-u.ac.jp/>

氏名	職名	専門
田中 和博	教授	衛生工学、下水道工学
山崎 淳	教授	コンクリート構造
大津 岩夫	教授	水理学
花田 和史	教授	地震工学
塩尻 弘雄	教授	構造力学、計算力学
徳江 俊秀	教授	土質力学、地盤力学
松島 眸	教授	環境衛生工学
島崎 敏一	教授	交通計画、建設マネジメント
久保田 進	教授	海岸工学
岸井 隆幸	教授	都市計画、交通計画
前野 賀彦	教授	海岸工学、海洋地盤工学、環境工学
野村 卓史	教授	計算力学、風工学
梅村 靖弘	教授	材料工学、コンクリート工学
安田 陽一	教授	水理学
鈴木 順一	准教授	計算力学
齋藤 利晃	准教授	環境工学
鎌尾 彰司	准教授	地盤工学
山敷 庸亮	准教授	環境工学、水理学、水文学
羽柴 秀樹	准教授	測量学
梅津喜美夫	専任講師	土質力学
後藤 浩	専任講師	水理学
金子雄一郎	専任講師	社会基盤マネジメント、交通計画
小林 義和	専任講師	地盤工学、地震工学
高橋 正行	専任講師	水理学
重村 智	助手	土質力学
仲村 成貴	助手	地震工学
大沢 昌玄	助手	都市計画、都市交通計画
下原 祥平	助手	交通計画
長谷部 寛	助手	構造工学、風工学
吉田 征史	助手	水環境工学

日本大学理工学部社会交通工学科

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1
TEL : 047-469-5239 FAX : 047-469-2581
<http://www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp/>

氏名	職名	専門
天野 光一	教授	景観、都市・地域計画、交通空間計画
伊澤 岬	教授	都市デザイン、景観設計、福祉交通
伊東 孝	教授	土木史、景観デザイン、都市計画
岩井 茂雄	教授	環境工学、舗装工学
佐田 達典	教授	測量学、空間情報学
高田 邦道	教授	交通工学、都市交通管理計画、ロジスティクス
福田 敦	教授	交通システム分析、国際開発工学
藤井 敬宏	教授	交通工学、環境計画
巻内 勝彦	教授	地盤工学
柳沼 善明	教授	コンクリート構造
吉川 勝秀	教授	河川流域工学、地域計画、国土計画
下辺 悟	准教授	基礎力学、地盤工学
轟 朝幸	准教授	交通計画、地域計画
安井 一彦	准教授	交通工学、交通信号制御
中山 晴幸	専任講師	情報工学、土質工学
峯岸 邦夫	専任講師	地盤工学
小早川 悟	専任講師	交通工学、都市交通管理計画
岸上 明子	助教	都市・地域計画、景観計画、都市計画史
伊東 英幸	助手	環境計画、環境影響評価
江守 央	助手	都市デザイン、福祉のまちづくり
石坂 哲宏	助手	交通システム分析、交通工学
斉藤 準平	助手	コンクリート構造
宮本 守	助手	河川工学、水環境工学

平成19年度 日大土木会通常総会開催

新会長・理事が決まる

平成19年度日大土木会通常総会が平成19年6月1日金曜日午後5時から日本大学理工学部駿河台校舎1号館2階の二・二会議室において開催された。通常総会には次の通り進んだ。

一・平成18年度収支決算・事業報告・監査報告
二・平成19年度事業計画
三・平成19年度予算案

会長 松田慎一郎
副会長 竹澤三雄(総務部会担当) 坂井淳(広報部会担当) 丹上幸一(業務部会担当) 三橋宏次(企画部会担当) 盛武建二(研究部会担当)

監事 清野茂次、内山節
理事 石井良昌、梅津喜美夫、大木

表1 収支決算総括表

(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

収入	3,872,210 円
支出	1,934,575 円
次年度繰越収支差額	1,937,635 円

1) 収入の部 金額単位:円

科目	予算額	決算額	増減
会費収入	2,400,000	1,479,000	921,000
総会収入	300,000	129,000	171,000
雑収入	0	113,374	-113,374
前年度繰越金	2,150,836	2,150,836	
収入合計	4,850,836	3,872,210	978,626

2) 支出の部 金額単位:円

科目	決算額	備考
1. 事業費	1,235,515	
会議費	275,805	総会、部会委員会費等
印刷製本費	366,310	総会案内等
教育補助費	500,000	各学部教育補助
講演料	50,000	特別講演等
出張旅費	43,400	
2. 管理費	699,060	
消耗品費	85,238	
通信運搬費	380,540	
アルバイト	233,282	
3. 次年度繰越額	1,937,635	
支出合計	3,872,210	

表2 予算案

1. 収入の部 金額単位:円

科目	平成19年度予算額	備考
収入		
会費収入	1,600,000	年会費
雑収入	300,000	総会費・利息等
前年度繰越収支差額	1,937,635	
収入合計	3,837,635	

2. 支出の部

科目	平成19年度予算額	備考
事業費	1,200,000	総会・委員会・印刷製本・講演料・教育支援・旅費等
管理費	600,000	消耗品・通信運搬・アルバイト等
予備費	87,635	
次期繰越金	1,950,000	
当期支出合計	3,837,635	

日大土木会の 教育支援事業

1日から平成20年3月31日までの2年間である。総会は総務部会長竹澤三雄氏の司会により開始され、松田慎一郎会長の挨拶に続き、三橋宏次氏が議長に選任され、三橋宏次氏の議事進行に基つき第1号議案平成18年度収支報告・事業報告・監査報告、第2号議案平成19年度事業計画、第3号議案平成19年度予算案、第4号議案役員の変更と続き、各議案とも満場一致で了承され、約30分で無事終了した。

第1号議案のうち、平成18年度収支決算は表1のとおりである。また、第3号議案の

平成19年度予算案は表2のとおりである。引き続いて坂井淳氏の進行により、大豊建設岡村康秀氏と不動テトラ高橋昭夫氏の特別講演「なぜ今私が社長か」が約60分にわたって行われ、盛会裏の内に終了した。そして午後7時より松田慎一郎会長が発声により懇親会が開催され、約1時間にわたり賑やかに懇親が行われた。

なお、会員の増減は、会員数一七〇人(平成19年3月31日現在)で、平成19年度内増減異動について入会4人、退会25人であった。

地盤の会開催

企画部会主催の地盤の会(山本毅委員長、平成19年6月より丸山誠委員長)が開催された。

第10回地盤の会

日時:平成18年12月2日(土)
14時00分~16時30分
場所:理工学部駿河台校舎1号館7階メディア特別室
司会:鎌尾彰司氏(地盤の会委員、日大理工土木)

講演:
1. 地下鉄構造物の維持管

第11回地盤の会

日時:平成19年6月1日(金)
13時30分~16時10分
場所:理工学部駿河台校舎1号館7階メディア特別室
司会:梅津喜美夫氏(地盤の会委員、日大理工土木)

講演:
1. 微生物栄養剤クロロリンを用いたVOC汚染地盤の浄化技術と適用事例について

第12回地盤の会

日時:平成19年11月22日(木)
16時00分~18時00分
場所:理工学部駿河台校舎1号館7階メディア特別室
司会:新梅津喜美夫氏(地盤の会委員、日大理工土木)

講演:
1. 自然的原因による環境汚染の現状と調査・対策の課題
鈴木弘明氏(日本工営株)
2. 建設現場のフッ素処理について
北村佳則氏(中日本高速道路株)



地盤の会 第11回研究会会場より